

神社祭時記

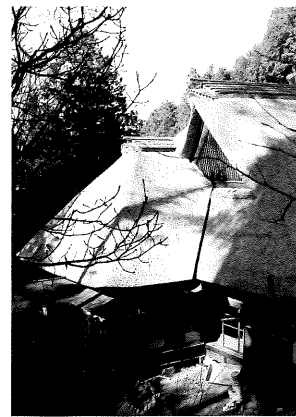
第七十二回奉納剣道大会

(四月二十九日)

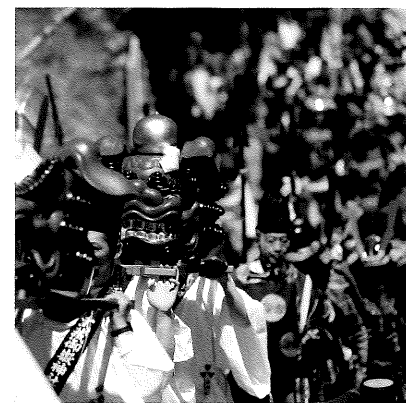
- 参加チーム数 四十六
- 優勝 青梅錬心館
- 準優勝 福生市剣道連盟
- 三位 羽村剣道玉心会
- 多摩市剣道連盟

【四月・五月】
枕べに ことしの春は 立ちにけり
日野 草城

「朝ふと目覚めると春の訪れに気がついた。」
里から登ってきた鶯の囀りが山中に響きだすころ、それは講中・崇敬者の春参りで賑わう時季と重なる。里よりはるかには遅い桜や樹々の芽吹きも参拝者の目を和ませる。御岳山の春は講中の参拝で気がつくのだ。都有形文化財の馬場家御師住宅も、一年かけた修復工事を終え、講中を清々しく出迎えている。



登山者で賑わったゴールデンウィークが空けた五月七日の朝、神社に山中の神主が集まりだす。神社最大の祭儀「日の出祭」の準備のためだ。拜殿の整備は元より御旅所への神輿や威儀物、神輿警護の鎧等々の運搬や整備など、すべての準備が終わるのは日の傾く夕方である。時刻は八時を迎える。ドーン、ドーンと太鼓の音が山肌を震わせる。「宵宮」が斎行された合図だ。厳粛な祭典は進み、やがて神主たちの「オー」という声が途切れることなく発せられる。絹垣という大きな白い布の幕に守られながら、本殿より御神霊が宮司と共に御旅所へと向かう。その神幸は、雅楽の調べと、ぼんやりとした影灯籠の柔らかな光に包まれてとても幻想的であった。



翌五月八日、始発のケーブルカーは神輿連、神輿の警護をする鎧武者、威儀物運ぶ白丁など多勢の崇敬者を乗せて

やって来た。

昨晩遅くより降り出した雨は、朝を迎えても止まず、仕方なく渡御の規模は縮小せざるを得なかったが、渡御は山間に響く法螺貝の音を合図に、ケーブルカー御岳山駅前前の広場を出発した。神輿連により、標高差百メートル、三百段続く階段も難なく無事に神社本殿に還ることが出来た。

そして午後は、大祭を祝福する宴の音が、色々な宿坊や売店から聞こえていた。

【六月・七月】

ほろほると 山吹散るか 滝の音
松尾 芭蕉

「山並みに美しい彩りを添えている山吹の花たちが、滝の音に流されるように落ちていく。」

六月三十日の夕方に夏越しの祓「大祓式」が執行された。宝物殿前に建てられたテントには、神職たちによって作られた、直径二メートル程の茅の輪と祭壇が設置され、祭壇の上には祓いの浄具【桃の木・麻・爺婆（春蘭）】、茅で作った菰、小幣、それに罪穢れを移した沢山の、人形（依り代）が置かれている。

三十名ほどの神主が大祓詞を三回唱える間に行事役は、人形を浄具で叩き祓い清め、菰で包み、その菰をきつく縛り、船の形に仕上げ、中心に帆のように御幣

が立てられる。この行事がすんだ後、斎主を先頭に神職が続き、茅の輪を三回くぐって大祓式は終了。その後この行事を見守ってきた参列者たちも輪をくぐり大祓の札を授かる。テントの脇には大用の茅の輪が用意され、愛犬をくぐらせる姿も見られた。



この時期は禊も行われる。六月二十四日、七月十七日に「滝行体験講座」が開催された。日帰りの滝行体験を中心に組まれた講座で、日頃ストレスと闘う多くの方が参加した。神社から四十分ほどの山中に姿を現す禊の滝「綾広の滝」は落差約十メートルあり、大岩の上から流れ落ちる。光が差し込むと周囲の緑が一層と映え、滝の水しぶきがキラキラと輝く様は、神聖さを増し、この山が神域

武州みたけ

であることを一層と我が身に刻む。水不足のためか水勢は強くはないが、その冷たさは緩んだ心を引き締めるのに十分である。滝を浴びる毎に一層と強くなる参加者たちの声が、それを如実に表しているようだった。この講座は、九月二十四日にも開催された。

【八月・九月】

涼風の 曲がりくねって 来たりけり
小林 一茶

「参道を歩いていると、滝からの風だろうか、涼風が参道に沿って頬を撫でる。」
夏休みを利用して集落到に住む女の子を対象に「浦安の舞講習会」を開催した。

今夏、御師（神職）として神社に奉仕する許可を得るための伝統行事「伝法（法継）」が行われた。御岳山の長男として生まれた者は、十代後半になると否応なしにこの行事を受けることになる。

伝法は、一週間神社に籠もり、朝夕は禊ぎ、日中は作法と祭式を学ぶ。この行事の最初に火鑽具で神火を熾し、その火で毎日粥を炊く。食事はその粥と梅干、味噌汁のみである。育ち盛りの男子たちには滝行や作法より、粥だけの食事の方

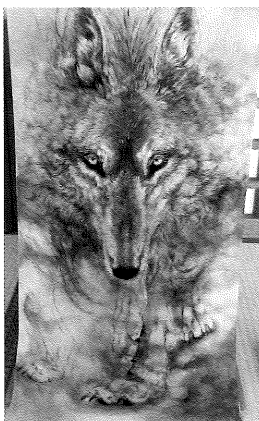
が辛いらしい。

今回は、高橋朋也君・鈴木雄己君・片柳樂至君の三名が受けた。前途ある青年に大きなエールを送りたい。



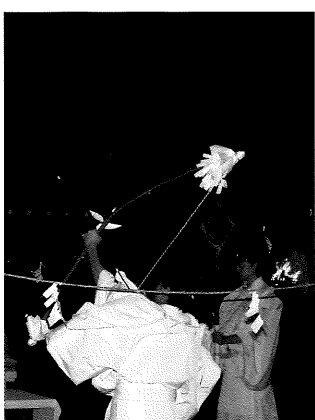
七月二十一日〜九月六日 神楽殿
「想像された狼たち展」開催

七名の若手作家がそれぞれのイメージ、それぞれの技法で表現したオオカミ像が展示された。見学された人は、作品への感心にとどまらず、オオカミについて、またオオカミ信仰についても興味があつたようだ。現代における日本狼の信仰の一端が垣間見えた。



秋虫の声も小さくなった九月二十九日夕刻、「流鏑馬祭」が執行された。当社の流鏑馬祭は神事の意味合いが強く、馬で矢を番えることは無い。弓を持った行事役は、的ではなく、人々を苦しめる邪鬼を打つ。矢を番え夜空に向かって放つと「魔、射たり」「射たり、おー」の聲が夜空を穿つ。その後、「こっぱ」と呼ばれるご神木で奉製された薄い木片が配られる。この板に焼き魚を乗せて食べると厄払いになり、健康に過ごせると伝わっている。

この日、山上集落では、尾頭つきの魚をこんがり焼いて木片にのせて食べるのが習わしだ。各戸から漂う魚が焼ける香りを楽しみながら、九月最後の祭典を終えた。



最後に、この半年を無事に過ごせたことを御嶽大神の御神威に感謝し、日の出祭世話人を始め、各種祭典行事にご協力、ご協賛下さいました崇敬者の皆様、各所関係機関の皆様に厚く御礼申し上げます。

御岳山の行事

- 平成三十年
- 一月 一日 元旦祭
 - 三日 太占祭
 - 大口真神社祭
 - 二月 三日 節分祭
 - 初午 稲荷社祭
 - 三月 八日 春季大祭（祈年祭）
 - 二十二日 奉納俳句奉告祭
 - 四月 下旬 産安社祭
 - 二十九日 奉納剣道大会・介山祭
 - 七日 日の出祭（宵宮）
 - 八日 日の出祭（神輿渡御）
 - 十五日 男具那社祭
 - 大口真神社祭
 - 六月 十七日 神楽と雅楽の一般公開
 - 二十四日 滝行体験講座
 - 三十日 夏越大祓
 - 七月 十四日 レンゲシヨウまつり（九月九日）
 - 十四日 新神楽
 - 二十二日 滝行体験講座
 - 九月 一日 カンタンを聴く会
 - 八日 新神楽
 - 二十九日 大口真神社祭
 - 流鏑馬祭
 - 十月 二十四日 一日修行体験講座
 - 体育の日 神楽と雅楽の一般公開
 - 十三日 天空もじまつり（十一月二十三日）
 - 十一月 八日 秋季大祭（新嘗祭）
 - 二十三日 末社祭
 - 十二月 九日 みたけ山トレイルラン
 - 二十三日 天長祭
 - 三十一日 大祓
 - 六月〜十一月 第四日曜日 夜神楽
 - 毎月 八日 月次祭
 - 毎日 日供祭